

道内大学留学生の道立高等学校等への派遣・交流事業

1. 目的

道内大学の留学生を道立高校等に派遣し、授業のピアサポートや部活動への参加、母国の紹介などを通して、生徒の英語力の向上や国際理解の増進に貢献するとともに、道立高校等の教育活動に対する留学生の理解を深め、もって母国と北海道との一層の交流促進に努める。

2. 主催

北海道教育委員会、国立大学法人北海道大学、国立大学法人室蘭工業大学

3. 実施状況

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、派遣方法を対面からオンラインに変更して実施
- ・道内大学留学生16名を道立高校等16校に派遣

	受入校	派遣期間	派遣留学生		
			所属	専攻	国籍(出身)
1	札幌東高校	9/13, 16, 17	北海道大学	野生動物学	ネパール
2	札幌国際情報高校	9/16, 17, 24	北海道大学	化学	パキスタン
		9/17, 24	北海道大学	地球システム科学	香港
3	千歳高校	9/13, 14	北海道大学	数学	インド
4	倶知安高校	9/15	北海道大学	工学	バングラデシュ
5	苫小牧南高校	9/15, 16	室蘭工業大学	化学	インド
6	登別明日中等教育学校	9/29	室蘭工業大学	環境創生工学	インドネシア
7	浦河高校	9/9	北海道大学	農学	インドネシア
8	七飯高校	9/15, 16	北海道大学	農学	バングラデシュ
9	旭川永嶺高校	9/28	北海道大学	農業工学	インド
10	士別翔雲高校	9/27, 28, 29	北海道大学	工学	タイ
11	羽幌高校	9/21	北海道大学	農学	中国
12	網走南ヶ丘高校	9/24	北海道大学	現代日本学プログラム	カナダ/日本
13	常呂高校	9/28	北海道大学	環境科学	パプアニューギニア
14	遠軽高校	9/29, 30	北海道大学	現代日本学プログラム	カナダ/日本
15	鹿追高校	9/27, 28, 29	北海道大学	環境科学	中国
16	根室高校	9/14, 15, 16	北海道大学	物理学	スロヴェニア

※12と14の派遣留学生は同一人物

参加した留学生の声

- ・プログラムは非常に素晴らしかった。高校生たちはとてもわくわくしていたし、私が母国紹介で伝えた内容について少し知っていた。プログラムを本当に一所懸命準備してくれた先生方にもとても感謝しており、可能であればまた同じ高校と交流することを楽しみにしている。
〔インドネシアからの留学生〕
- ・このプログラムを毎年開催し続けてほしい。私が北大にいる限り、毎年必ず参加を希望する。
〔インドからの留学生〕
- ・プログラムの期間中、生徒たちと素晴らしい時間を過ごした。またこのような経験をしたい。
〔パプアニューギニアからの留学生〕
- ・このプログラムは全員にとって素晴らしい機会だと心から思っている。日本の高校生と外国人留学生が素晴らしい交流経験を育み続けることを願っている。〔カナダからの留学生〕
- ・日本の教育制度について学び、国内外の問題に対する日本の生徒たちの考え方、表現の仕方を理解することができた。〔ネパールからの留学生〕
- ・ずっと大切にしていきたいような素晴らしい経験と思い出となった。日本の高校生と交流できるこのような機会をもっと得たいと思う。〔バングラデシュからの留学生〕

受け入れた学校の声

○留学生の受入れについて

- ・ネイティブの英語を聞くことができる貴重な機会であり、スピーキングのモチベーション向上につながった。
- ・生徒が英語を用いて、海外の方と交流できる機会であり、国際交流、留学に興味を持つ良いきっかけであると思う。
- ・外国人留学生と向き合って会話する機会は大変貴重である。発言や質問をした生徒にとっては「話せた」という自信になり、今後の英語学習のモチベーションになる。
- ・今回派遣された留学生が、日本人の友達がおらず、大学でも留学生同士での交流しかないことを嘆いていた。高校生とこのように交流ができることは双方にとってメリットがある。

○オンライン実施について

- ・オンラインであれば国内・海外問わず、遠隔地の留学生との交流機会が創出できる。対面実施が可能な場合でも、オンライン実施の選択肢があると良い。
- ・オンラインであっても効果は見込める。むしろ、教科内の調整で済むため、最小範囲の連携で素早く動けるメリットが大きいと感じた。
- ・遠隔地の生徒に札幌市内の留学生との交流を提供できる貴重な機会である。
- ・できれば対面が良いが、オンラインには、受入れ負担が少なく、得られるものが大きいという良さがある。
- ・オンライン交流は、コミュニケーションを取る上で制約があるものの、ICTを活用すれば世界中の人と交流ができることを生徒自身が感じ取ることができた。次年度以降もオンライン交流で構わないので、こうした機会を設けてほしい。

○生徒の様子について

- ・授業では、留学生が、母国、家族、食べ物などをスライドで紹介してくれた。とても気さくな方で、生徒の質問に丁寧に答えてくれていた。生徒たちの様子を見ると、実際に英語を使用してコミュニケーションを図れることが嬉しかったようだ。普段は寡黙な生徒が意欲的に手を挙げて質問している様子から、やはり「人と人との交流」には大きな力があると実感できた。
- ・生徒は留学生の母国について大いに理解を深めることができた。英語圏の国だけではなく、アジアの国々にも興味を持った生徒もあり、卒業後はアジアも含めて海外に出て多くのことを学んだり、日本との違いを実際に肌で感じたりしてみたいという声があった。
- ・生徒は今回の交流に向けて英語で質問を考えたり、相手の留学生が知りたいことを事前に聞いて、それに応じた発表を行った。事前の取組も含めて一生懸命頑張っていた。生徒からは「リモートなのでいつもと違う感じで新鮮でした。」「インド系の人と話す英語を初めて聞いたので少し聞き取れないところがありましたが、だいたい聞き取ることができて嬉しかった。」「自分のプレゼンの内容が伝わり嬉しかったです。」などの感想があった。